

令和4年7月 20 日
兵庫県立西宮甲山高等学校
校 長 早 川 千 也

第Ⅰ学期終業式 式辞

生徒の皆さんおはようございます。

今日で、Ⅰ 学期が終わり、明日から夏休みですね。新型コロナ感染者は Ⅰ 学期の間一度減っていたかと思ったら、最近また増加しています。感染者数が多い割には、重症者数が今のところ少ないのは救いですが、だからと言って油断しないでください。重症者は一定数、必ずいますから、自分が重症にならないという保証はどこにもありません。また軽症だとしても、これで軽症なのかと思うくらい結構苦しい思いをしている人が多いと聞きます。また、軽症だったけれど後遺症に長く悩まされている人もいると聞きます。夏休みも油断せず、感染予防に努めてください。

また、暑い日は熱中症にも気を付けてください。私の話も、できるだけ短くしようと思いますが、気分が悪くなったりしたら、すぐに近くの先生に申し出てください。

さて、今日は松尾芭蕉の話をしようと思います。「古池や蛙飛び込む水の音」（ふるいけやかわづとびこむ みずのおと）、「閑さや岩にしみ入る蝉の声（しずかさや いわにしみいるせみのこえ）」という俳句を聞いたことはありませんか。また「夏草や兵どもが夢の跡」（なつくさや つわものどもが ゆめのあと）という俳句は知っているでしょうか。三つ目の俳句に関連して、今テレビで「鎌倉殿の 13 人」という大河ドラマを日曜に放送されていますが、見たことのある人はいますか。少し前ですが、菅田 将暉(すだ・まさき)さんが演じる源義経が、大泉洋さんが演じる源頼朝に謀反の疑いをかけられ、奥州平泉（今の東北地方の岩手県平泉町（世界遺産にもなっています））の奥州藤原氏にかくまわれます。しかし、その奥州藤原氏の藤原秀衡が亡くなった後、その跡継ぎである藤原泰衡によって攻撃を受け自殺に追い込まれてしまいます。余談ですが、このとき、義経の家来の弁慶が、何本も矢を受けながらも、義経を守るため立ったまま命を落としたという伝説から、「弁慶の立ち往生」「立往生」という言葉が生まれました。その後まもなく、栄華を誇った奥州藤原氏は滅んでしまいます。そのことを、江戸時代になってその場所を訪れた松尾芭蕉が、「夏草や兵どもが夢の跡」という俳句にしたのです。松尾芭蕉は、弟子の河合曾良（かわい そら）と一緒に東北地方を旅して、紀行文であり俳諧（はいかい）である「奥の細道」、今風に言えば旅行記兼俳句集である「奥の細道」を残しました。

その他、松尾芭蕉の言葉とされるものに「不易流行」というものがあります。芭蕉の弟子の去来という人が書いた「去来抄」という書物に、芭蕉の教えとして書かれています。「蕉門に千歳不易の句、一時流行の句と云う有り。これを二つに分かつて数えたまえども、その基は一つなり。不易を知らざれば基立ちがたく、流行をわきまえざれば風新たならず」というものがあり、「不易つまり時代が変わっても変わらないものを知らないと基(もとい)・基礎が成り立たず、流行つまり時代の流れを知らなければ新たなことに進めない」というような意味です。これも余談ですが、本校では校訓にあたるものを基(もとい)といいますね。

芭蕉は、また「軽み(かるみ・かろみ)」という考えも残しています。「軽み」とは、日常の平凡なことの中に新しい美を発見し、それをさらりと「軽く」表現することが俳諧の理念であるとするものです。「不易と流行」そして「軽み」の考えを、芭蕉は俳句で次のように言っているのではないのでしょうか。「夏草や兵どもが夢の跡」、芭蕉は移ろいゆくものは止められないという思いとともに、そのあとに新たなものが生まれ、なにげない今の日常が続くといっているのではないか。「閑さや岩にしみいる蟬の声」、日常のいろいろな喧噪(けんそう)も軽く考えれば、心静かになると言いたいのではないのでしょうか。人の人生も、生まれた時からいろいろな辛さや苦しみがありながら、うれしいことや楽しいことがその間にあり、そして一人の人生は終わっていく。人間・人類の歴史の中では、それが繰り返され新たな人の日常が生まれていく。辛さや苦しさを重く感じるよりも、時々訪れるうれしいことや楽しいことを心軽く待つ方がよいのではないかと、言っているような気がします。「軽く」というのは軽薄に、ということではないので誤解しないでください。

私の解釈は間違っているかもしれませんが、ただぜひ皆さんには「不易流行」と「軽み」を、皆さんなりの方法で、実践してくれたらと思います。具体的には、基となる変わらないものは大切に、そしていかんともしがたい変わっていくものは先んじて準備したり取り入れたりすること、辛いことや苦しいことを重くとらえて悩むより、楽しいことやうれしいこと、未来に向けて気持ちを軽く持つことを心掛けることなどです。そうすれば、平穏な日常を送り、幸せをつかめるのではないかと思います。

これから始まる夏休み、感染症、熱中症に気をつけて、様々な誘惑にも気をつけて、前向きに新しいことにもチャレンジして、心軽やかに過ごすようにしてください。

「閑さや岩にしみ入る蟬の声 (しずかさや いわにしみいる せみのこえ)」

「夏草や兵どもが夢の跡」(なつくさや つわものどもが ゆめのあと)

今日は、かなり難しい話だったかもしれませんが、自分なりに考えてみてください。

以上で、1学期終業式の話が終わります。